

まちづくりの基本理念

「自立・連携」「未来協創」

これから新たなまちづくりを行うに当たっては、「一人ひとりが自立したうえで他と連携を図り、力を合わせることで、明るい未来を創りあげていく」という意味がこめられています。

まちづくりの将来像

ひとを育て自然と産業が共に息づくまち 田川 ～活力あるものづくり産業都市を目指して～

時代の潮流や本市の特性などを踏まえ、今後10年間のまちづくりにおいて特に重要なものを、環境との共生、若い世代のひとづくり、移住・定住化の促進、少子化・高齢者対策、人権の尊重、ものづくり産業の育成とし、若い世代の人材育成に力を入れつつ、環境に優しいものづくり産業を根付かせ育成することで、都市としての活力を生み、発展を遂げるまちを目指します。

平成32年度の目標人口

46,000人（推計人口は43,000人）

まちづくりの基本目標 将来像の実現を目指す分野ごとの目標

- 都市づくり** 自然豊かで安全・快適に暮らせる美しいまちづくり
- 産業・経済** 環境にやさしく魅力あふれる産業を育むまちづくり
- 医療・福祉** 互いに支えあい誰もが健やかに安心して暮らせるまちづくり
- 教育・文化** 郷土を愛し豊かな心と創造力を育むまちづくり
- 行財政運営** 期待と信頼に応え市民と共に歩む「さわやか」なまちづくり

まちづくりの重点目標 将来像の実現を目指し、特に重点を置いて取り組むべき目標

- 移住・定住化の促進**
教育環境や子育て環境、生活環境など様々な視点から、居住環境の整備・向上に努めるとともに、移住・定住化の促進に向けた諸施策に集中的に取り組めます。
- ものづくり産業の振興**
産業構造や教育環境など様々な視点から、ものづくり産業都市を目指した環境整備に努めるとともに、ものづくり産業の振興に向けた諸施策に集中的に取り組めます。
- 循環型・低炭素社会の構築**
教育環境や都市基盤、産業基盤の整備など様々な視点から、循環型・低炭素社会の構築に向けた諸施策に集中的に取り組めます。



「田川市民のことは」：昭和48年10月制定

田川市第5次総合計画(基本構想・後期基本計画)概要版

発行 平成28年3月
編集・印刷 福岡県田川市
〒825-8501 福岡県田川市中央町1番1号
TEL:0947-44-2000(代表)

田川市第5次総合計画概要版

基本構想・基本計画(後期)

ひとを育て自然と産業が共に息づくまち 田川 ～活力あるものづくり産業都市を目指して～

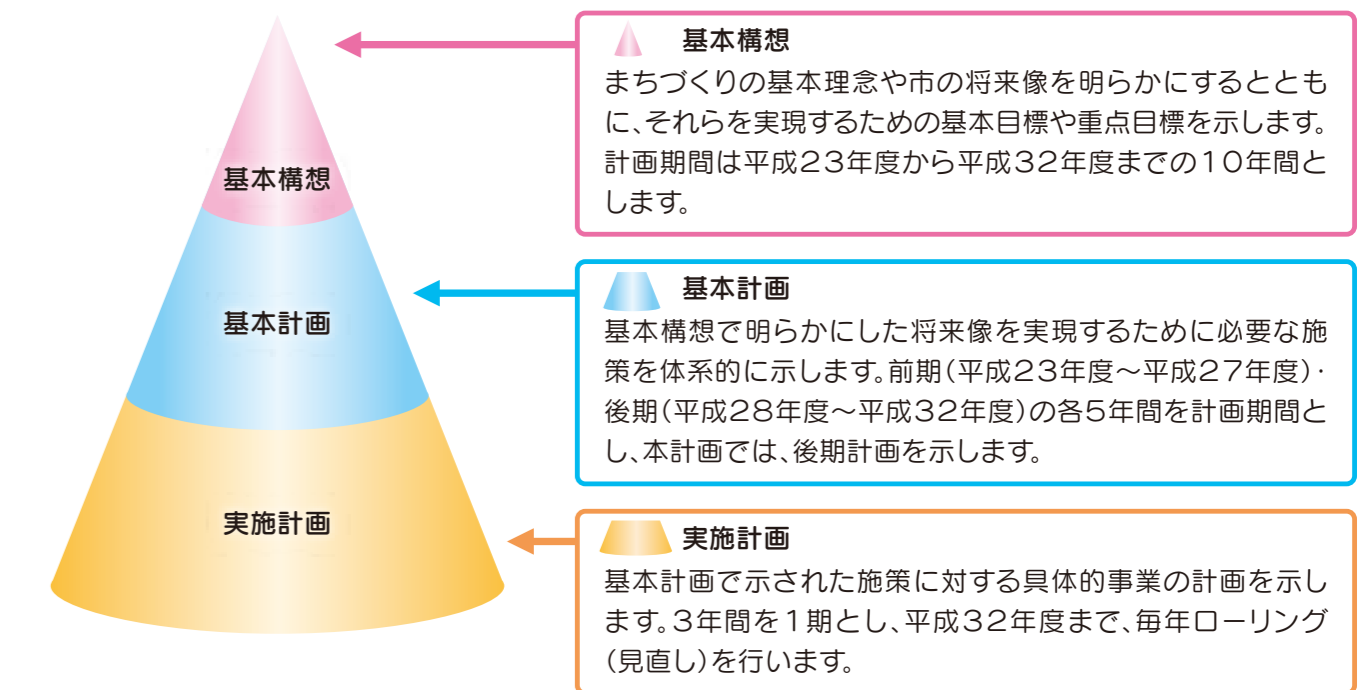
田川市第5次総合計画・基本構想

計画策定の趣旨

田川市では、これまで、第4次総合計画(平成13年度～平成22年度)に基づき、「人が豊かに輝くまち田川」をコンセプトにしたまちづくりを推進してきました。
しかし、第4次総合計画が策定されてから今日まで、本市を取り巻く社会経済環境は大きく変化しており、市の取り組むべき課題は増え続けています。また、行政運営においては、地方分権がまさに実行段階を迎え、自主的で自立的なまちづくりが一層求められる時代となっています。
このような変革が求められる時代にふさわしい自治体経営を目指し、地域の発展と住民福祉の向上を図るため、その基本指針となる第5次総合計画を策定するものです。

計画の位置付け・構成

田川市第5次総合計画は、平成23年度から平成32年度までの10年間のまちづくりの総合的な指針となる市の最上位計画です。
本計画は、基本構想、基本計画及び実施計画の3層構造で構成しています。



社会経済環境の変化 田川市を取り巻く社会経済環境の変化を踏まえ、長期的なまちづくりの指針となる第5次総合計画を策定しました。

- 1 地方の時代** 地方分権型行政システムへの転換
- 2 環境の時代** 地球温暖化に対応した環境重視社会への遷移
- 3 こころの時代** 心の繋がりを重視する時代への変容
- 4 経済の時代** 世界的経済不況と環境分野等での新たなビジネスの萌芽
- 5 クール・ジャパンの時代** 日本固有の文化や優れたものづくり技術への海外からの高い関心
- 6 少子・高齢化の進行、人口減少社会の到来** 人口減少問題が全国的な課題
- 7 安全・安心に対する意識の高まり** 自然災害の発生等により安全・安心対策が重要